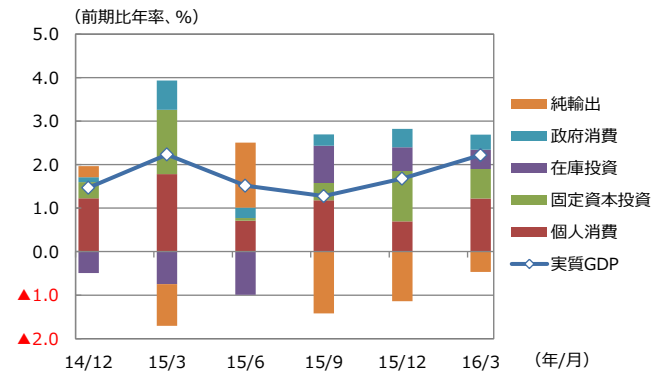


今日のトピック 英国のEU離脱投票を受け下落。落ち着きどころを探る展開へ 最近の欧州株式市場（2016年6月）

ポイント1 足元は緩やかな景気拡大 個人消費がしっかり

- 欧州景気は、金融緩和政策や難民対策の財政支出等を背景に、緩やかな拡大が続いています。失業率の低下が継続するなど、底堅い雇用を背景とした個人消費にも支えられ、実質GDP成長率は3年にわたりプラス成長が続いています。
- ユーロ圏の6月の購買担当者景気指数（PMI）総合は52.8ポイントと、ほぼ横ばいでした。好悪の境目とされる50を引続き上回っており、景況感は維持されています。

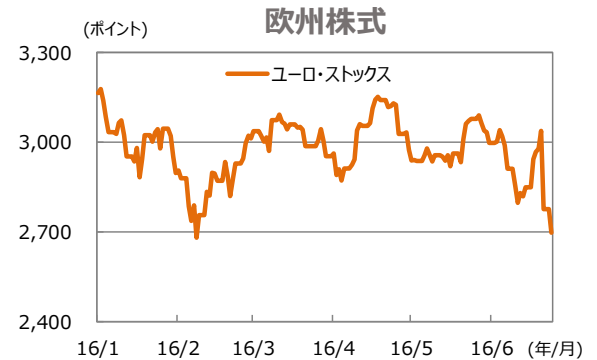
ユーロ圏実質GDP成長率と需要項目別寄与度



(注) データは2014年10-12月期～2016年1-3月期。
(出所) EU委員会統計局データを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 英国のEU離脱で減速へ 欧州株式は急落

- しかしながら、英国の欧州連合（EU）離脱が確定し、欧州経済の先行きへの不透明感が高まっています。英国向け輸出の減少や企業センチメントの悪化により、欧州経済は減速することが避けられない情勢です。
- 英国のEU離脱決定を受け、リスク回避の動きが強まり、欧州株式は24日、27日と続落しました。



(注) データは2016年1月4日～2016年6月27日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 当面株価の上値は重い、リーマン・ショック時とは異なる

- 欧州株式は、景気下振れリスクや英国とEUとの離脱交渉を巡る不透明感から当面上値が重い展開が予想されます。ただし、欧州中央銀行（ECB）は、市場の動揺を見極めつつ、追加の金融緩和を決定すると見込まれ、株価の下値を支えそうです。加えて、ユーロ域内でも国民の不満の高まりを解消

するため財政支出が拡大される可能性が高そうです。リーマン・ショックの時と異なり、世界の金融市場には潤沢な流動性が存在します。また、欧州債務危機を経て、欧州の銀行の資本が改善していることから、少なくとも英国のEU離脱を要因とする信用収縮に陥るリスクは回避できると見られます。

ここもチェック! 2016年6月24日 英国の国民投票 国民投票は「Brexit」
2016年6月17日 「Brexit」残留か離脱か（欧州）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。